

# 旭川における流域一体となった 地域防災体制構築への取り組み

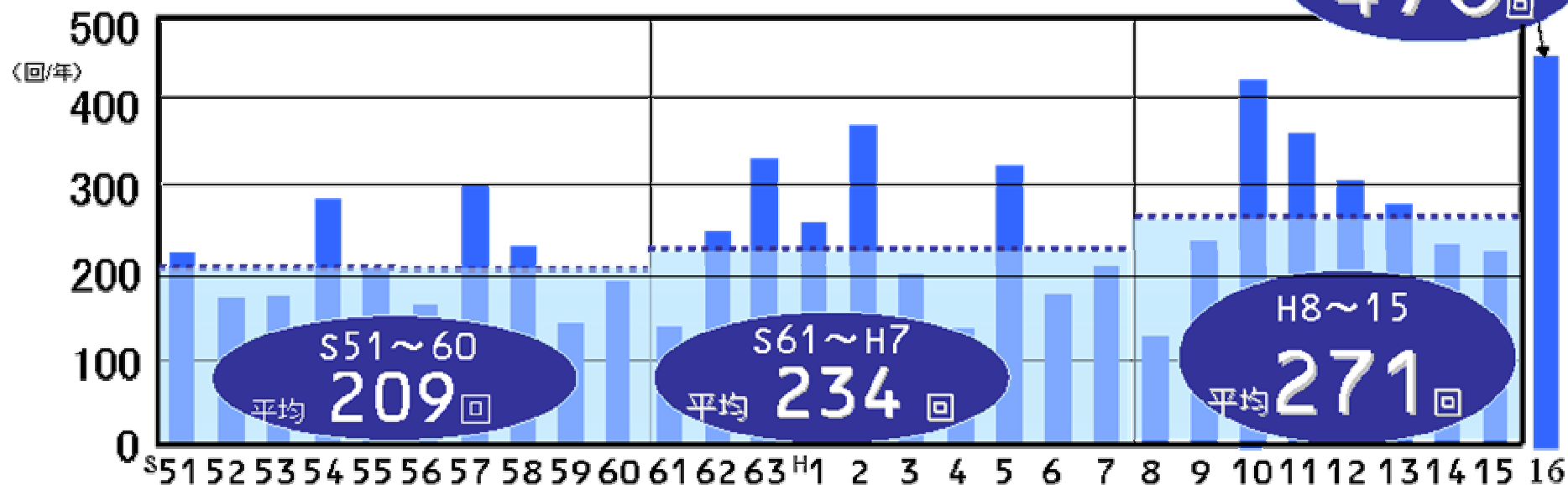


平成10年10号台風 岡山市中原地区浸水状況 写真提供：岡山県

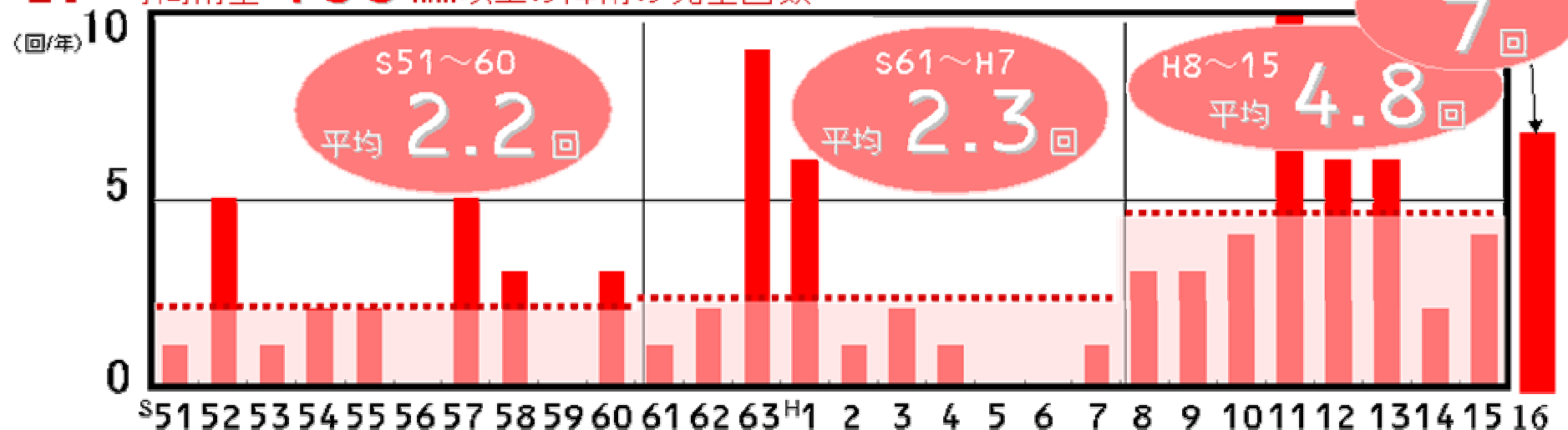
# 頻発する集中豪雨

1時間降雨量における年間延べ件数  
(全国のアメダス地点 約1,300箇所より)

## 1. 時間雨量 50 mm以上の降雨の発生回数



## 2. 時間雨量 100 mm以上の降雨の発生回数



# 危機管理施策の基本的視点

## 減 災

責任役割の明確化

あらゆるレベルでの連携の強化

情報の開示と共有

日常に根ざした危機管理

# 旭川流域連絡協議会 (H11.3設立)

## 構成団体

- ・旭川流域の10自治体 (設立当時23自治体)
- ・河川管理者 (事務局) … 岡山県、国土交通省岡山河川事務所

## 行政のネットワーク

- ・365日の川を活かした施策の展開
- ・流域一体となった川づくり、地域づくり



流域行政機関の緊密な意見交換・交流・連携により、よりよい地域づくり、川づくりの推進を目指す。

## 活動内容 (~H14)

- ・清流ワークショップへの支援
- ・アドプト、危機管理対応についての検討
- ・流域シンポジウム等の広報、学習会開催
- ・湧水、河川環境情報の共有
- ・旭川一斉水質調査の共催





# 旭川流域連絡協議会 活動内容

## 1. 川づくり、地域づくりに関する意見交換

(河川行政施策、河川を利用した地域づくり・地域連携、河川環境整備と保全、河川愛護団体との川づくり)

## 2. 流域が一体となった情報発信の取り組み

## 3. 旭川流域に関するその他の活動



### 主な活動内容

- ・清流ワークショップへの支援
- ・アドプト、危機管理対応についての検討
- ・流域シンポジウム等の広報、学習会開催
- ・湧水、河川環境情報の共有
- ・旭川一斉水質調査の共催



# 平成15年度からの防災に関する取り組み

よりよい川づくり、地域づくりには、地域が災害に強いことが前提！

岡山県に大きな被害をもたらした平成10年10号台風洪水から5年が経過

↓  
地域の防災意識の希薄化

↓  
防災意識の啓発が必要！

局地的集中豪雨の多発  
土地利用の変化

↓  
出水が急激・想定外の災害発生

↓  
ハード+ソフト両面の整備が必要！

「防災」をテーマに、  
「流域一体となった防災体制の構築」について検討

# 「旭川流域の水防災に関する研究会」

～ 地域の防災から流域の防災へ～ H15.10.28

## 目的

- ・平成10年当時の反省と課題を改めて整理
- ・今後の洪水・土砂災害を軽減する水防災のあり方を多面的に検討

## 参加

約100名(自治体首長、各自治体建設部局、防災・保健衛生部局、河川管理者(国・県))

## 内容

平成10年10号台風による被害  
と対応について

パネルディスカッション「地域防災のあり方」  
災害を予防するための施策  
情報の収集と伝達、被災後の処置  
地域と行政の役割



研究会 開催状況

## パネルディスカッションメンバー

### ・パネリスト

相澤 修一氏(NHK岡山放送局 放送部長)  
青野 義昭氏(旭町長)  
浅野 實氏(勝山町長)  
黒瀬 宏子氏(建部町 保健福祉衛生課長)  
能登原 功氏(岡山県真庭地方振興局長)

渡部 秀之(岡山河川事務所長)

### ・コメンテーター

内田 和子氏(岡山大学文学部教授)

### ・コーディネーター

宮崎 貢(岡山河川事務所副所長)

# 研究会総括：被害を最小限に抑えるために・・・

施設整備・予防策を行っていても・・・

予測を超える  
災害発生

行政だけでは対応不可能！

被害を最小限にするには・・・

地域コミュニティによる  
自主的な活動が不可欠！

そのためには・・・

地域全体の防災意識の啓発が重要！



H10.10.17 落合町



H10.10.18 落合町  
応急復旧状況



H10.10 建部町 給水支援状況



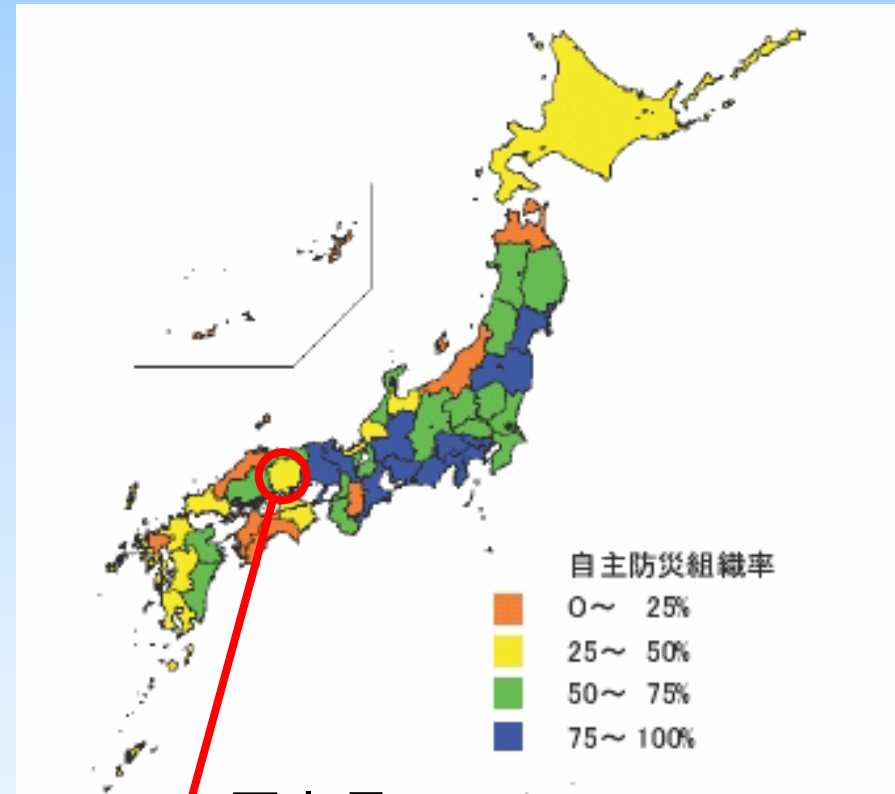
# 自主防災組織とは

- ・「自分たちの地域は自分たちで守る。」
- ・地域住民の連帯のもとに団結。
- ・災害時の自己避難、災害弱者の避難誘導及び安否確認、近所の助け合い等を組織的に行う。



# 都道府県別自主防災組織率 (H16.4現在)

$$\text{組織率} = \frac{\text{自主防災組織加入世帯数}}{\text{総世帯数}}$$



岡山県 41.9%

全国平均62.5%を  
約20%下回っている。

# 地域防災力強化に向けての 自主防災組織育成・強化計画

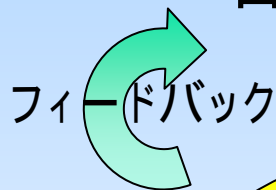
自主防災組織のモデル地域を選定



モデル地域へのヒアリング「改善点などの抽出」



自主防災組織育成・強化計画の作成



モデル地域の育成・強化支援

防災マップづくり、勉強会、訓練など  
モデル地域同士の意見交換会  
協議会での進捗状況報告



問題点の整理・「育成強化ガイド(案)」を作成



ガイド(案)に基づき目標年度を定めて、流域全体へ拡大

平成16年度

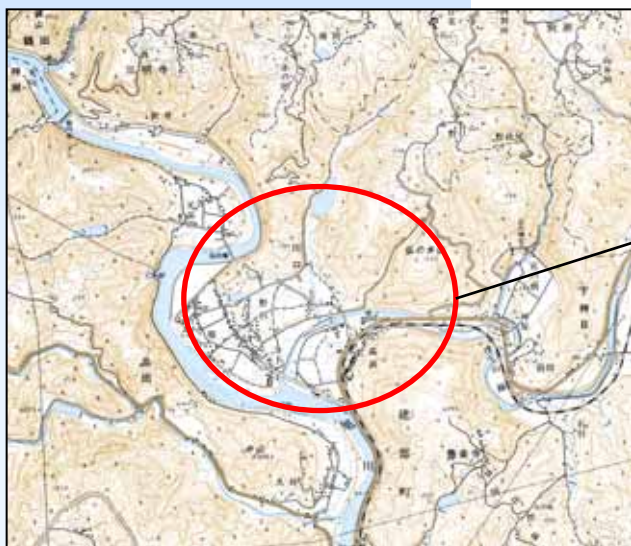
平成17年度

旭川流域連絡協議会における地域防災体制の構築

# 3モデル地域コミュニティ位置図

地域特性の異なる  
上流・中流・下流  
でモデル地域コ  
ミュニティを選定

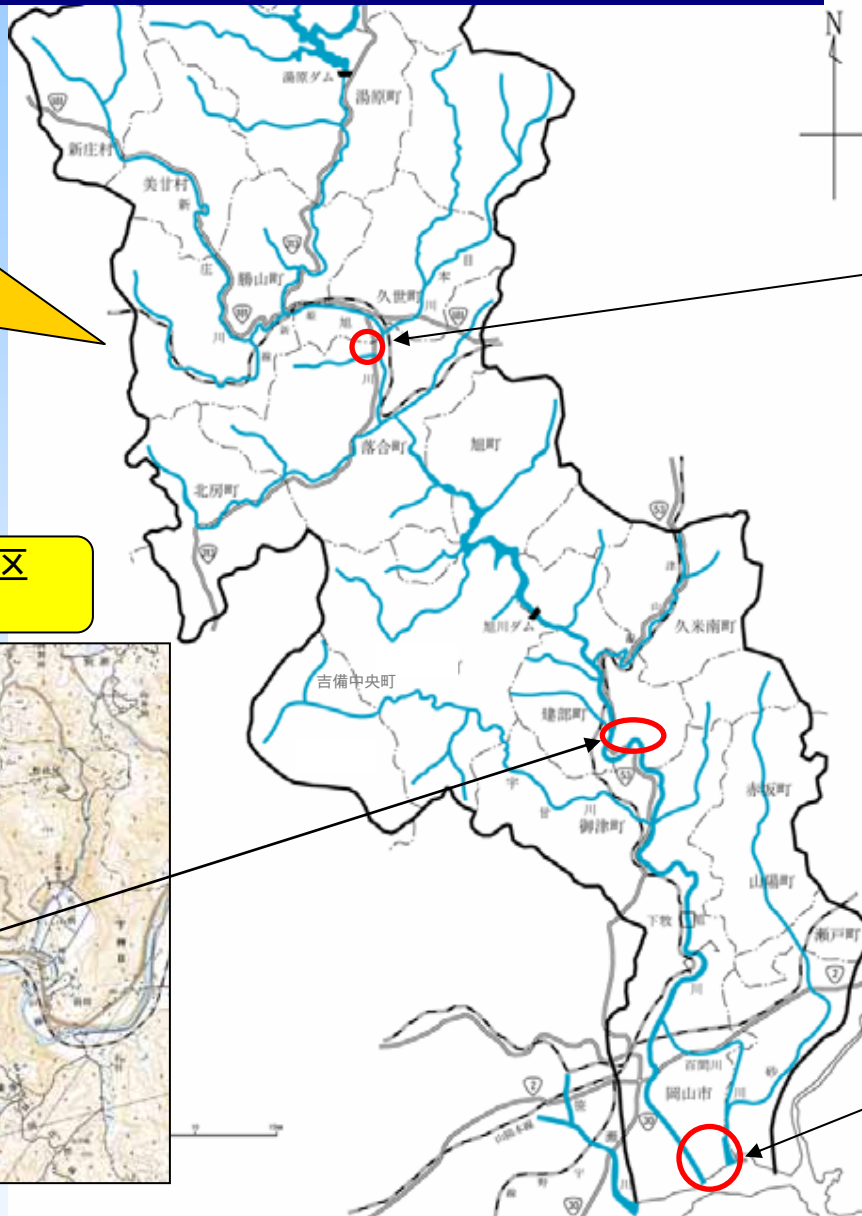
中流部: 建部町川口区  
(川口自主防災会)



上流部: 真庭市(旧落合町)  
開田自治会



下流部: 岡山市操明学区  
(操明学区連合自主防災会)





# 岡山市操明学区連合自主防災会

～三方を水に囲まれ、用水が縦断する低平地～

## 【活動内容】

- ・連合町内会及び関係官庁等諸団体との連携
- ・H16台風時の自主避難活動、防災訓練実施

## 【問題点】

- ・一般住民は役員に比べ防災意識が薄い。
- ・地区にコミュニティハウス(拠点)がない、資金不足、高齢化

## 【今後の目標】

組織として目標をもって活動、企業との連携



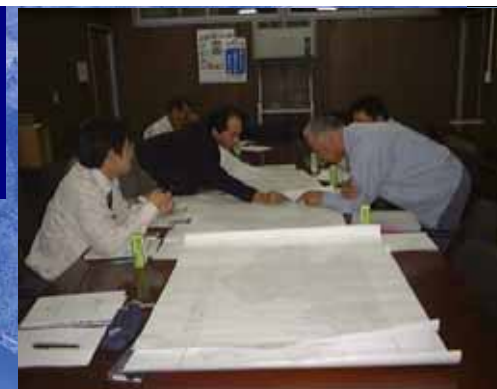
岡山市





# 建部町川口自主防災会

～ 上流に旭川ダム・地域内には旭川の支川誕生寺川～



約220世帯  
(約684人)



## 【活動内容】

- ・消防団と協力し、浸水常襲家屋への水防活動
- ・年1回、消火訓練、水防資材の備蓄、高台に避難所(公民館)

## 【問題点】

自主防災組織の枠組みはあるが、旭川ダムにより大水害の危険が少なくなったため、防災意識が低い

## 【今後の目標】

訓練、研修に参加により組織強化に努める



# 真庭市(旧落合町)開田自治会

～ 背後に山地、地区内を用水が縦断する地域～



## 【活動内容】

- ・コミュニティ活動での団結力を活かし、水防活動を行っている。
- ・企業との連携、水防資材の備蓄あり

## 【問題点】

高齢化、自主防災組織規約等が未作成

## 【今後の目標】

地域に合った自主防災組織の体制づくり、近隣地区との連携

約80世帯  
(約250人)

旭川

開田コミュニティハウス



# 災害に強い地域社会をどうつくるか？

## 【 行政と地域との3つの垣根 】

縦割り行政

専門用語  
(ことば)

既成概念  
(行政依存)

普段から意志疎通  
のできるつきあい

一つの目的の  
達成に向けて協力

行政と地域が対等  
自分で自分を守る

わかりやすいことばで  
共通認識を持つ

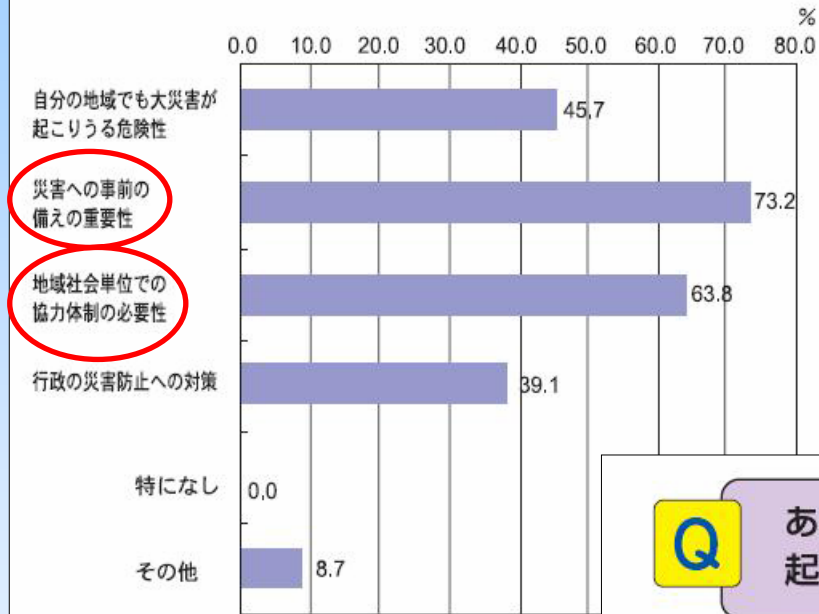
行政同士、行政と地域とが  
お互い歩み寄る第一歩を踏み出すことが重要！



# 防災・減災フォーラム アンケート結果

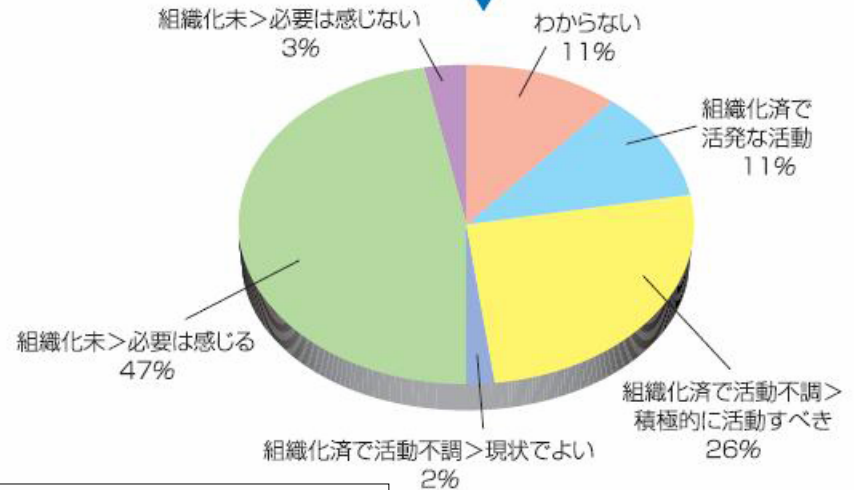
Q

本日のフォーラムに参加されて、  
どのようなことを感じましたか？



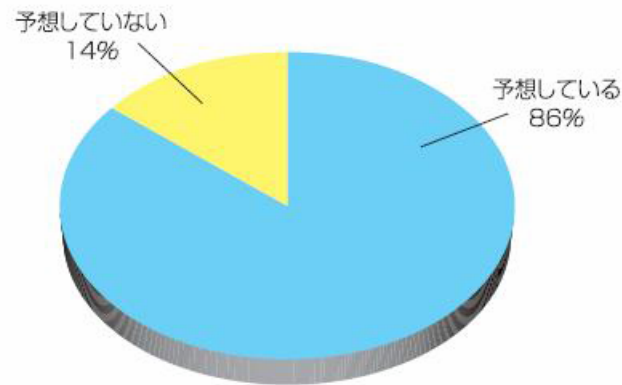
Q

自主防災組織についてどのよ  
うに感じましたか？



Q

あなたの地域で今後水害が  
起こると予想していますか？



参加人数: 250人

アンケート回収数: 143枚

回収率: 57%

回答者属性

会社員 31.0% 公務員 19.4%

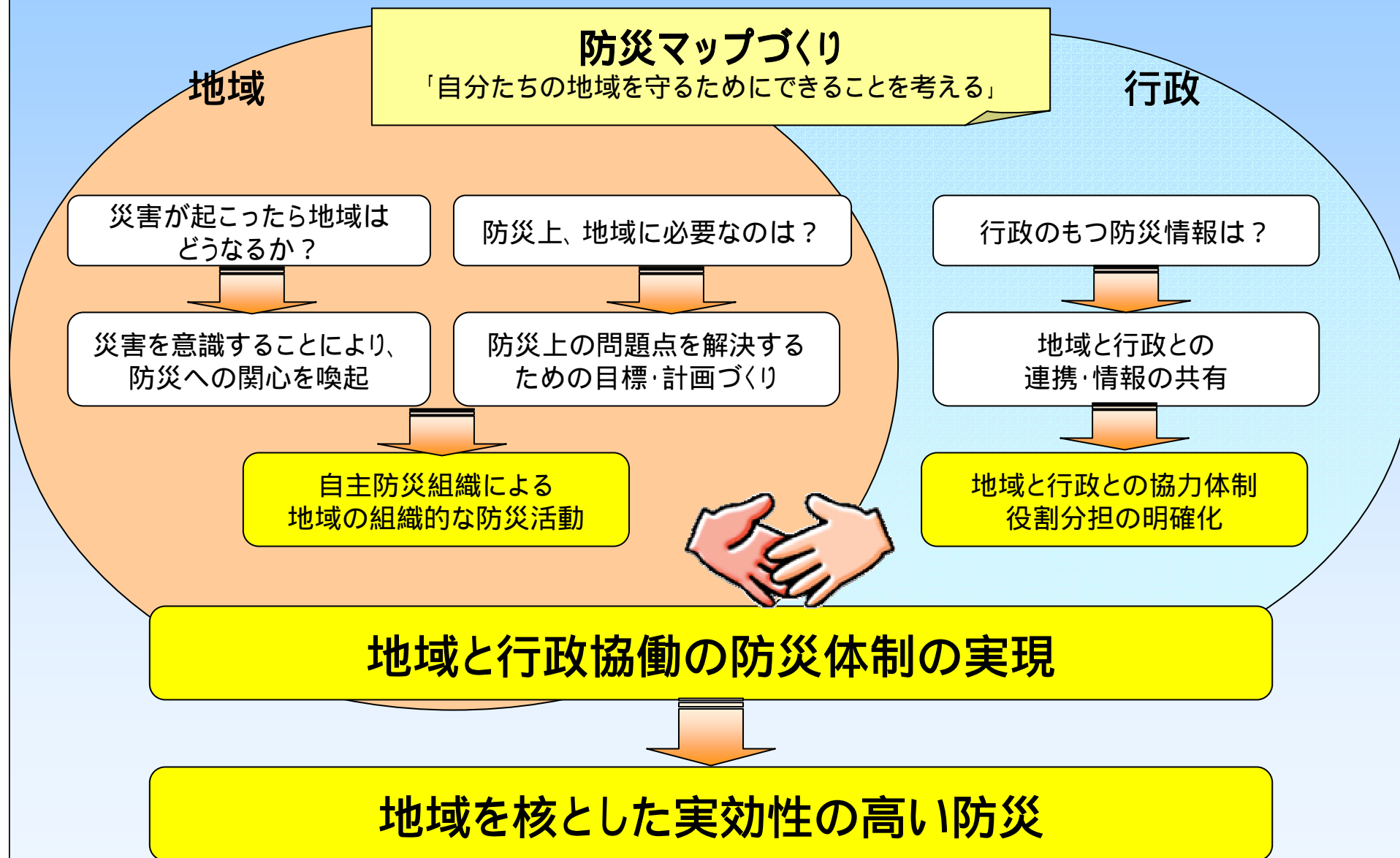
無職 15.8% 自由・自営業 13.7%

専業主婦 7.2% 農林水産業

4.3% その他 8.6%



# 防災マップづくり ～ 自助・共助・公助のために～



# 防災マップ(岡山市操明学区連合自主防災会)

【岡山市操明学区連合自主防災会】

## これまでの「防災マップづくり」への取り組み

平成16年10月6日(水) 13:30~15:00  
岡山市ふれあいセンター 第5研修室

学区内の単位町内会  
(単位自主防災会)の  
活動の現状や今後の課  
題などについて行政と  
一緒に懇談しました。



平成17年2月10日(木) 10:00~12:00  
岡山市ふれあいセンター 第4研修室

活動の現状や今後の課  
題を踏まえ、「防災マ  
ップ」づくりについて  
行政と一緒に懇談し  
ました。



平成17年4月13日(木) 13:00~16:00  
岡山市ふれあいセンター 第4研修室

これまでの懇談の内容  
を踏まえ、自主防災会  
の方々が中心となって  
「防災マップ」の策  
づくりを実際に進めま  
した。



## 「防災マップ」作成の流れと今後の予定

- ・避難所、一時避難所
- ・主な避難経路
- ・水防倉庫
- ・消火栓、防火水槽
- ・公衆電話
- ・危険箇所
- ・公共施設、事業所

## 防災マップ 岡山市操明学区(操明学区連合自主防災会)

約2,230世帯(約7,000人)



凡例	
	地域の重要な防災拠点です。
	一時的に避難できる公園や民間企業です。
	資材倉庫・水防倉庫
	公衆電話の位置
	消火栓の位置 防災活動の際に使用する消火栓の位置です。
	防火水槽の位置 防災活動の際に使用する防火水槽の位置です。
	防災備品等の格納施設 防災活動の際に使用する防災備品等の格納されている位置です。
主な避難経路 災害時はこの経路を主に利用して避難してください。	
	洪水危険箇所
	その他危険箇所
過去に設置した水路です。災害時は注意が必要です。	
	幼稚園・保育所
	小学校
	福祉施設
	コミュニティセンター
その他公共施設	
	消防
	岡山市関連施設
	国土交通省関連施設
	一時的に避難できる公園、広場等には、このマークが付いています。
	事業所
	コンビニエンスストア
	境界区

## 避難のイメージ





# 防災マップ(建部町 川口自主防災会)

【建部町川口自主防災会】

## これまでの「防災マップづくり」への取り組み

平成16年10月14日(木) 19:20~21:00  
建部町役場

過去の災害体験や自主防災会の活動の現状、今後の課題などについて行政と一緒に相談しました。



平成17年2月16日(水) 19:00~20:30  
建部町中央公民館

活動の現状や今後の課題を踏まえた「防災マップ」づくりについて地元消防団や行政と一緒に相談しました。



平成17年6月3日(金) 19:30~21:00  
建部町役場

これまでの相談の内容を踏まえ、自主防災会や地元消防団の方々が中心となって「防災マップ」の家づくりと、今後の進め方などについて相談しました。



## 「防災マップ」作成の流れと今後の予定

### ①「防災マップ(案)」の作成

モデル地域コミュニティの代表の方々(自主防災組織役員、消防団、老人会の方)と旭川流域連絡協議会で防災マップ(案)の作成を行います。



今、この辺りの段階です

### ②「防災マップ(案)」の地域コミュニティの皆さんへのお知らせ

コミュニティハウスへの掲示や自発していただき、修正や追加があれば書き込みをしていただきます。



### ③「防災マップ」の掲示・広報

住民のみなさんに見ていただいた後、最終案を作成します。できあがったら、コミュニティハウス等へ掲示を行います。必要に応じて配布も行います。



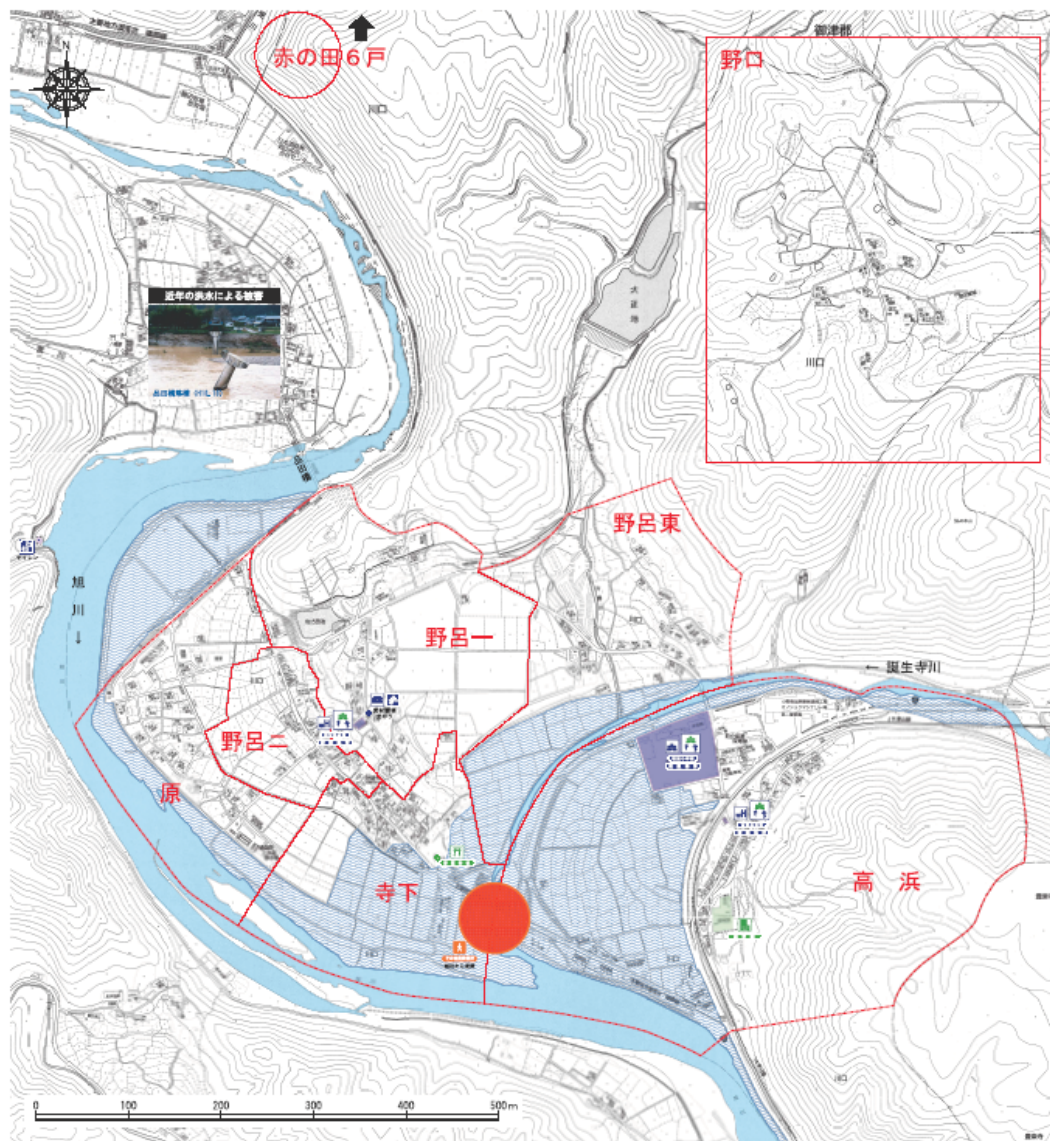
### ④その他

見直しがあった場合、適宜修正追加を行っていただきます。



## 防災マップ 建部町川口区 (川口自主防災会)

約220世帯(約680人)



## 凡 例

	地域の重要な防災拠点です。
	資材置場・水防倉庫
	防災備品等の格納位置 防災活動の際使用できる防災備品等の格納されている位置です。
	サイレンの位置
	危険箇所
	その他危険箇所
	浸水箇所 過去の災害等を元にした浸水の危険のある場所
	公共施設
	公民館
	事業所
	神社
	地区界

## 地区全体の様子



## 地域に今も残る過去の洪水の記録





# 防災マップ(真庭市(旧落合町)開田自治会)

【真庭市開田自治会】

## これまでの「防災マップづくり」への取り組み

平成16年10月6日(水) 18:00~20:00  
開田地区コミュニティハウス

過去の災害体験や自主防災会立ち上げに向けて、今後の課題などについて行政と一緒に相談しました。



平成17年2月26日(土) 19:00~20:30  
開田地区コミュニティハウス

活動の現状や今後の課題を踏まえた「防災マップ」づくりについて地元消防団や行政と一緒に相談しました。



平成17年6月2日(木) 19:30~21:30  
開田地区コミュニティハウス

これまでの相談の内容を踏まえ、自主防災会づくりに向けた防災組織委員の検討や自治会の方々が中心となって「防災マップ」の案づくりを実際に進めました。



## 「防災マップ」作成の流れと今後の予定

### ①防災マップ(案)の作成

モデル地域コミュニティの代表の方々(自主防災組織役員、消防団、老人会の方)と旭川流域連絡協議会とで防災マップ(案)の作成を行います。



今、この辺りの段階です

### ②防災マップ(案)の地域コミュニティの皆さんへのお知らせ

コミュニティハウスへの掲示や回覧していたが、修正や追加があれば巻き込みをしていただきます。



### ③防災マップの掲示・広報

住民の皆さんに見ていただいた後、最終案を作成します。できあがったら、コミュニティハウス等へ掲示を行います。必要に応じて配布も行います。



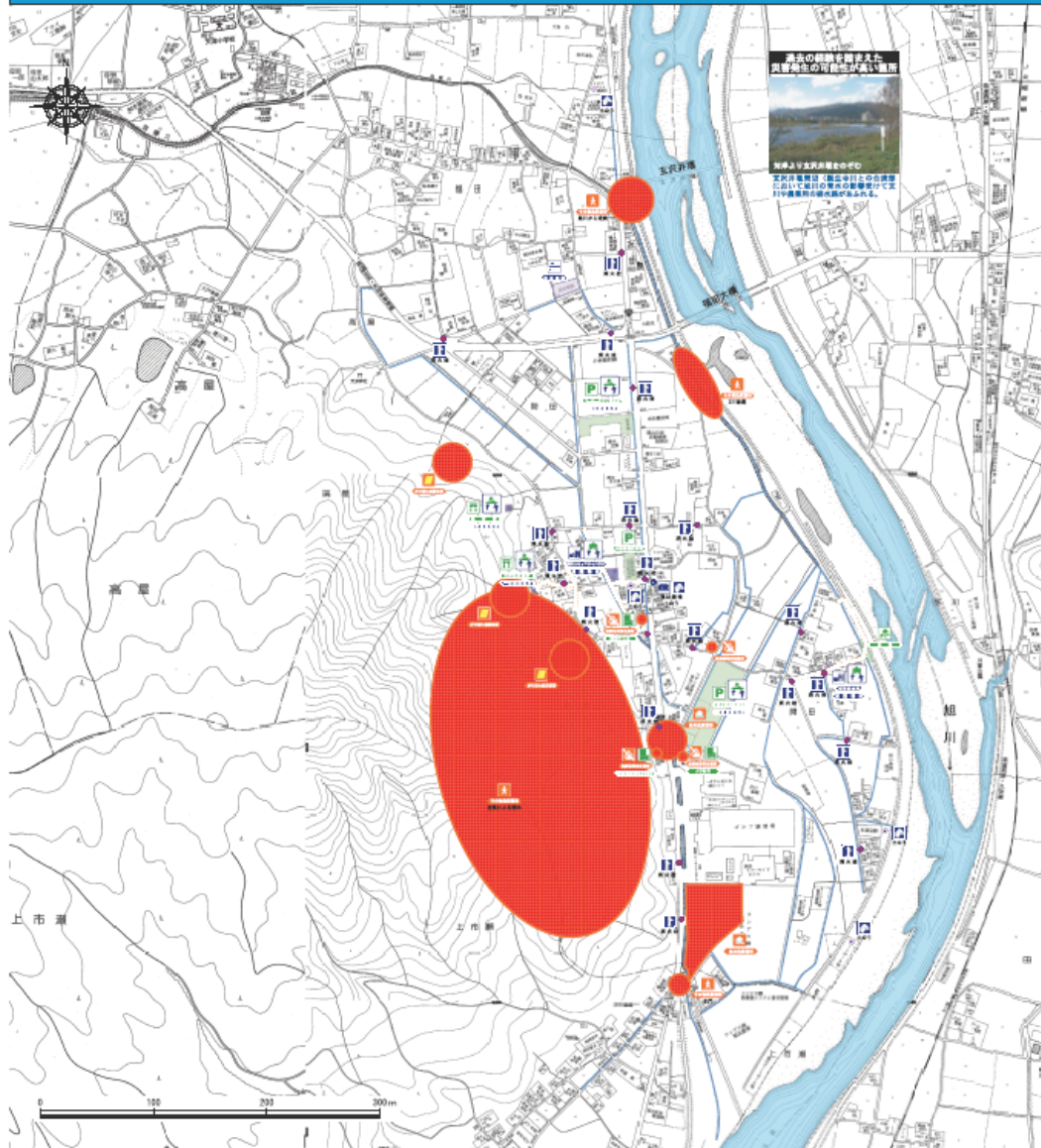
### ④その他

見直しがあった場合、適宜修正追加を行っていただきます。



## 防災マップ 真庭市 開田自治会

約80世帯(約250人)



### 凡 例

	地域の重要な防災拠点です。
	資材置場・水防倉庫
	防災備品等の積納位置 防災活動の際使用できる防災備品等の積納されている位置です。
	主な避難経路 災害時はこの経路を主に利用して避難してください。
	浸水危険箇所
	がけ崩れ危険箇所
	危険物等所在箇所
	その他危険箇所
	公民館
	コミュニティセンター
	一時的に避難できる公園、広場等には、のマークが付いています。
	事業所
	神社
	駐車場
	水路
	地区界
	要介護者(独居者・高齢者)等の居住する世帯 災害時はこのマークのある世帯に「声かけ」等避難時の協力をお願いします。

お断り  
本地区では、防災マップに地域として必要な情報の一つとして、「要介護者(独居者・高齢者)等の居住する世帯」を記載し、それをマップ上に反映させています。今回は個人情報に変わる事案であるため、その位置等の記載は差し控えていただいております。御了承ください。

### 地区全体の様子





# 防災マップ作製の新聞報道 ～岡山市操明学区連合自主防災会～

山陽新聞 平成17年10月17日

OKAYAMA

地域情報

## 岡山市民版

身近な避難場所が一目で分かります。岡山市の操明学区連合自主防災会（岡本茂会長、約二千二百世帯）は、災害時の避難場所や危険箇所などを示した独自の「防災マップ」を作った。避難場所を市が指定した個所だけでなく、企業が協力を得て増やしているのが特徴。

### 避難場所

## 一目ではっきり

### 危険箇所

自主防災会は地域が連携し、災害時に人命救助などを行う互助組織。同学区は旭川などに囲まれた低地で、浸水する危険性が高いことから、二十八単位町内会が順次、十三の自主防災会を結成。二〇〇二年度に連合自主防災会を立ち上げ、年二回、パケツでの消火訓練や土のう作りなどの防災訓練を行っている。マップづくりは、昨年八月の台風16号で堤防の一部に穴が開



操明学区連合自主防災会が作製した防災マップ

## 防災マップ作製

いたり、床上浸水して一部住民が操明小学校（藤崎）に避難する事態が起きたのがきっかけ。日ごろから防災に対する意識を高めるために取り組んだ。マップは縦百十センチ、横八十センチで、二千六百部作製。防災会メンバーが今年二月から半年かけて、地域にある消火栓や公衆電話、危険箇所などの場所を現地確認しながら、住宅地図に記入。市が指定する三方所の避難場所に加え、二十四時間利用可能な一時避難場所として学区内十企業のグラウンドや建物を掲載し、より短距離で避難

### 操明学区の自主組織

できるようなことにした。記号や絵図を使用し、見やすさにも配慮。緊急連絡先を各戸で書き込める枠も設けた。

岡本会長は「学区内は転出転入が多く、どこに避難すればいいのかという声もあった。安全確保の目安にしてほしい」と話している。市防災対策室は、「独自の防災マップを作った自主防災会は初めてではないか」としている。市は九月から、防災マップ作りの補助（限度額五万円）をスタートしている。問い合わせは同室（0886-803-1082）。

# 防災マップづくりから得たもの

## 成果

- ・過去の水害、現在の危険な個所など地域の実状を認識できた。
- ・地域内での情報交換、共有により、地域の防災意識が向上した。
- ・地元企業への働きかけにより災害時の協力が得られた。
- ・地域の人材の有効活用が図れた。
- ・平成17年台風時の事前避難に活用された。

## 今後の課題

- ・災害弱者の把握の必要性と個人情報保護法との葛藤
- ・防災マップの継続的な利用、更新
- ・今後の活動を継続するための資金調達

# 地域防災体制構築の取り組み 活動報告書の作成

## 活動報告書 構成(案)

### 1. 地域防災の必要性(自助・共助・公助)

#### 2. 具体的な取り組み・ノウハウガイド

1) 自主防災組織をつくろう!

2) 防災マップをつくろう!

3) 防災訓練をやってみよう!

講習会を受けてみよう!

4) 災害にどう対応するか?

災害の経験を活かそう!

### 3. 今後の展開

取組み状況  
に応じて作成

2～3年を目途に  
報告書全体をとりまとめ



旭川流域連絡協議会

# 今後の展開

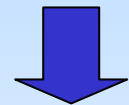


地域防災の  
取組み拡大

流連モデル地域



旭川流域全体



岡山県全体

- ・行政と地域の役割の明確化
- ・平常時からの意志疎通
- ・可能なことから迅速に実施すること
- ・継続した呼びかけ、取組み